

にこりこー帯にぎわい会議 第11回 会議録

日時 平成29年11月1日(水) 18:30~19:30

場所 箕輪町役場 2階 大会議室

参加者(敬称略)

町長 白鳥政徳

委員 唐澤榮子、唐澤一美、唐澤良忠、栗原勇雄、黒木一郎、柴みずほ、
柴宮勇一、関幹子、増沢弘久、和田篤士、廣瀬桃子

以上11名

(欠席 鮎澤進二、根橋英一、木下深、齋藤浩介、田中健太、小野路子)

事務局 産業振興課 課長 三井清一、係長 土岐俊、主事 松本児太郎

傍聴者 6名

1 開会

2 会長挨拶

3 提言書提出

①提言書の町長への提出

(黒木委員長より提言書提出)

②提言書内容説明

(黒木委員長より提言書内容説明)

4 町長謝辞

町長：提言をいただきありがとうございました。

会長を中心に委員の皆様で精力的に研究いただけたことに、あらためて感謝申し上げます。この間、施設の現地調査であるとか、他の地域にも出向いてもらって道の駅の現地調査もしてもらいました。

箕輪町の農業がどうなっているのか、農家がどうなっているのかと原点に立ち返っていただいた検討をしていただきました。

併せて、振興公社の経営状況といったこと、直売所の歴史的な経過にも遡って検討していただきました。

そういった意味では将来を見据えた建設的な意見をいただいたと思っておりますし、今、ご説明いただきましたけれども聞けば聞くほど厳しいご

意見も多々散りばめられていましてちょっと頭がいたいなというのが正直な感想でございます。

運営主体の問題ですとか、それぞれ施設毎の課題、また今後の改修を進めるうえでの方針といたしますか、具体的な内容、また道の駅をどうするかというのは今ご意見をいただきましたけれども、非常に多角的な分析のされた提言だというように理解しました。

今の時点では一定の方向性を申し上げる段階ではございませんので、本日はそういったことは申し上げませんが、全体の運営主体をどうするかといったものは大きな課題だと考えます。この間、提言書にも出てきましたけれども、JA 上伊那との連携をどうするか、隣接に共撰の直売所や農園があるということもあり、協議しています。そういったことも踏まえて方向性を出していきたいと思えます。

なお、道の駅がどうかということも最後に出てきました。この方法とか考え方は、私も議会の中で申し上げているつもりではありますが、それを踏まえながら、今回は皆さんににぎわい会議という形をお願いをしました。

やはり町民の皆さんに喜んで使ってもらえる場所になったり、それを踏まえて、町外、県外の方に使ってもらえるようにならないと、道の駅という看板だけ出しても、それは一定の目的を達成することはできないだろうということをお願いしました。頂いた結果はまさにその通りでありまして、小さくともキラリと輝く、そういった施設にしていきたいと思えます。

戦略的に考えて、「いつどうするか」といったことはこれから検討いたしますけれど、最終段階としては道の駅を目指していきたいというのは当初から申し上げている通りでもありますし、その方向で考えていきますが、様々な指摘をいただきましたので、やはり相当検討しないと駄目だなという感覚は、改めて抱かせていただきました。

もう一つ、今回の議論の中で出たのは、箕輪町の農業の状況であるとか農家の状況であるとか、資料としても事務局から出していただいた部分もあって、詳らかになってきた部分もあります。

農業自身をどうしていくのか、それをどう応援していくのか、応援す

る側として一帯をどう考えるか、というのがあるのかと思います。来年の予算を示す中で農業応援団構想を具現化するつもりなのですが、構想の一つの柱にあの地域をできればと思ひまして、そんな考えのもとでご指摘いただいたと思います。

いずれにしても長い期間検討していただきました。そして精力的に議論を戦わせていただいたと、私も1、2度しか出席できませんでしたけれどもお話を伺ってまいりました。全ての回の記録も読ませていただきましたが、一帯の10年、20年の変化が詰まった内容となっております。これを踏まえて早期に方向性を出して行きたいと考えております。

もう一つはやはり地方創生は知恵の出し合いみたいところがございまして、競争といったところもあります。勝ち負けというところまで私は言いたくありませんが、そういう所も地方創生にありまして、全体の地域の活性化というのは薄れています。そういったことで箕輪町も他の地域に負けないように頑張っていく一つの材料として使っていきたいと考えておりますので、これからもよろしくお願ひします。

今日の段階ではとりあえず会議としては終了となりますけど、皆様のご意見を具体化するにあたって、また色々な形で事務局の方からご意向や考え方を伺っていくことになると思いますので、これからもよろしくお願ひいたします。あまりシビアなことを言われても困る部分がありますが、特に運営主体と中身、これは変えていくつもりですので、ご支援いただければと思います。どうもありがとうございました。

委員：運営主体は広く求めていくしかないでしょう。あるいは魅力的な場所にすれば進んで運営主体が応募してくると思います。

町長：そうなのですが、町の施設として税金を使って変えていくというのは一定の限界があります。だから具体的な中身については町がやれることと、場合によってはどこかを介在させてその方にやってもらうという方法の両方を考えてやっていくのではないのでしょうか。結論は出ていませんが、振興公社が今まで通りということは考えておりません。ただ、どうやってみても町の施設なので、町との関わりを無くすことはできません。

そのあたりをどうしていくか。提言の中には両方の意見が出ておりますの

で、非常に重い課題だなと思いました。

委員：職場の組織の問題。人が辞めていってしまったとかチームとしてうまくいかないということを会議の中でもお聞きしています。

この会議の初日にどんなことをやれば賑わうか、アイデアを出してくださいという課題が出ました。いい悪いは別として、何百も出てきました。

毎日とはいかないかもしれませんが、これを職場でワイワイ話して、「どうやったら人が来るか」ということ話し合って、片っ端から上手くいく事、いかない事がありますが、やってみて上手くいくまでやる。

何にも知らない素人の他人でも100も200も出ます。民間、うちの会社もそうですけど、いろんなことをやって、その1%が上手くいっているわけです。いっぱい話ができる職場づくりが必要です。これはお金かけなくてもできることだと思います。

ちょうど今、箕輪町役場で10年ぐらい、早稲田大学の人材マネジメント研究に勉強に行って、話し合いの勉強を中堅クラスの方が行っていると思います。うちの会社もその話し合いの仕方を取り入れてうまく行っていますが、民間でも上手くいくので、役場の中でもやってみて、この取り組みも取り広げていくといいのじゃないのかなと思っています。

町長：組織の在り方としてはご指摘の通りだと思います。

委員：この先の動きについても、分かる情報を私どもにお伝えいただければと思います。

5 その他

6 閉会